エコアクション21

環境経営レポート

活動期間：2021年10月～2022年9月

株式会社　小野田

所在地：静岡市葵区千代1丁目14番33号

作成日：2023年　1月13日　(第17版)

®環境省
エコアクション21
認証番号 0001369

目　次

表　紙　1ページ

目　次　2ページ

1.環境経営方針　3ページ

2.組織の概要　4ページ

3.環境活動実施体制　5ページ

4.環境経営目標(2020年10月に中期目標設定)　6ページ

5.環境経営計画と評価　8ページ

6. 目標と実績の評価(2021年10月～2022年9月)　9ページ

7. 事業活動のフロー図(2021年10月～2022年9月)　10ページ

8. 環境関連法規制等への違反、訴訟等の有無　11ページ

9. 全体の評価と見直し(2021年10月～2022年9月)　12ページ

10.代表者による全体評価と見直し・指示の結果　13ページ

1.環境経営方針

株式会社小野田　環境経営方針

基本理念

私達は自然の営みを配慮した事業活動を通して、地域と地球の環境保全に貢献し、美しい地球を子供達に引き継いでゆく。

環境方針

1.当社の事業活動である、紙製品、紙加工品の流通・販売事業によって発生する下記の環境負荷を低減する。

(1)二酸化炭素排出量の削減
①電力使用量の削減
②ガソリン・軽油使用量の削減

(2)廃棄物発生量の削減
①紙加工により発生する紙類の再生利用の徹底
②使用済み木製パレットの再資源化の徹底

(3)水資源使用量の削減
①水道使用量の削減

2.エコマーク商品の販売を推進する。
FSC 認証紙の拡販を推進する。

3.環境関連法規制等を遵守する。

4.環境経営方針を掲示し、全社員に周知させ事業活動の中で環境に配慮した行動の継続的な改善を行う。

制定日　2006 年 8 月 11 日

改訂日　2020 年 4 月 1 日

株式会社　小野田

代表取締役社長　小野田　眞

2.組織の概要

1.事業社名及び代表者名
株式会社　小野田
代表取締役社長　小野田　眞

2.所在地
本社・本社倉庫　：静岡県静岡市葵区千代 1 丁目 14 番 33 号
慈悲尾倉庫(無人)　：静岡県静岡市葵区慈悲尾 39 番地
第一工場：静岡県静岡市葵区千代 1 丁目 360 番 14 号

3.環境管理責任者及び担当者氏名、連絡先
環境管理責任者：井鍋　祐太
担当者　　：同上
連絡先　　：TEL　054－277－2001
FAX　054－277－2007
E-Mail　inabe@paper-onoda.co.jp

4.事業内容
紙製品及び紙加工品の販売、
ペットフード及びプラモデルの包装

5.事業の規模
⑴資本金：1,200 万円

⑵売上高：10.98 億円(2022 年度実績)

⑶社員：14 名
パート：54 名

⑷総床面積：1,845 ㎡

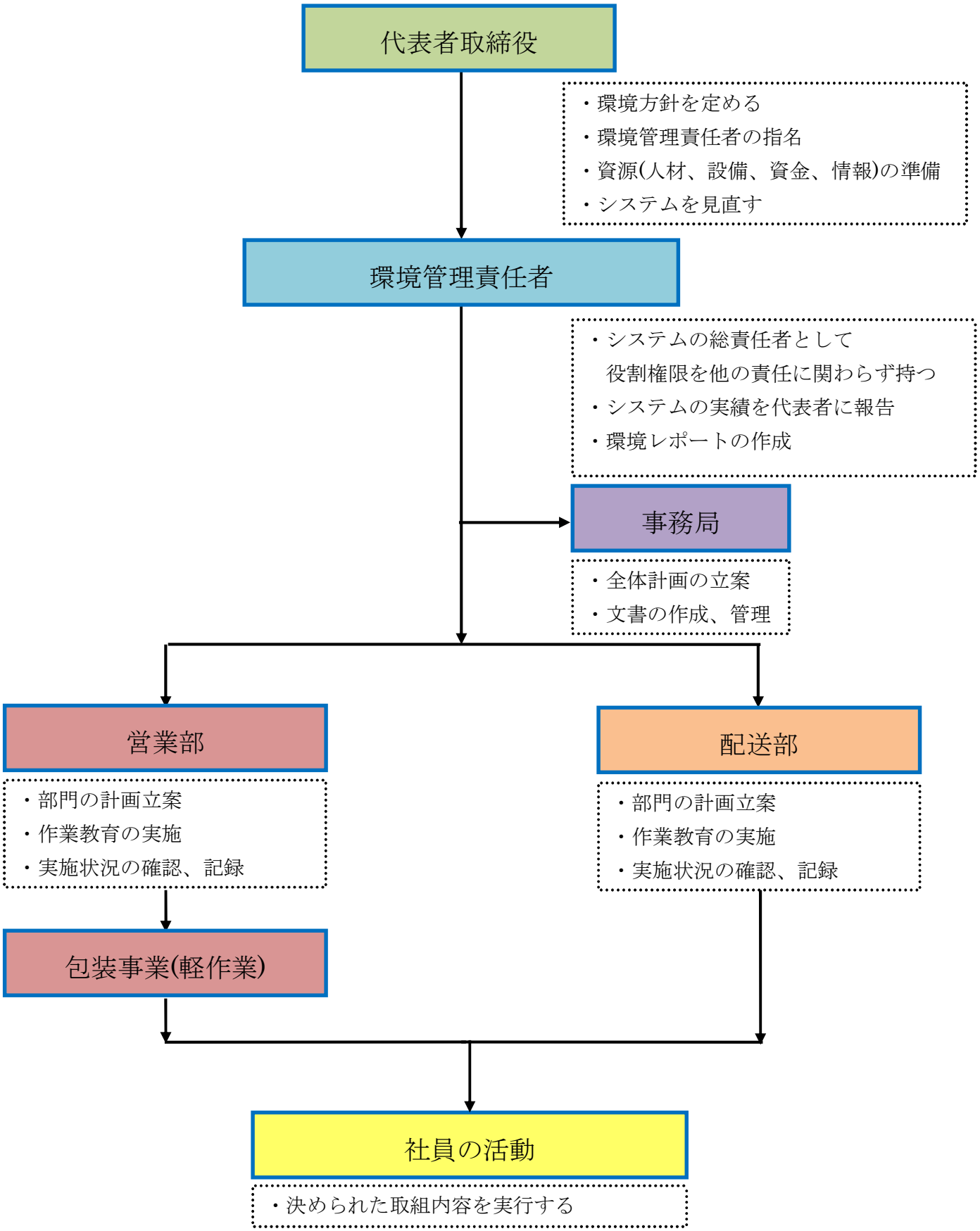
6.対象範囲
1.対象範囲(認証・登録範囲)
本社、慈悲尾倉庫、第一工場
(全組織・全活動・全従業員を対象とする)

3.環境活動実施体制

作成日:2019 年 11 月 1 日

1.組織図及び実施体制

作成者：小野田　眞



4. 環境経営目標(2020 年 10 月に中期目標設定)

1.二酸化炭素量について 2019 年度の実績を基に目標値を算出する。
電力量、ガソリン使用量、軽油使用量それぞれを 2019 年度の実績を基に、年 1%ずつ、2022 年度に 3%削減する事により、二酸化炭素排出量を減らす。

2.水使用量について 2019 年度の実績を基に、年 1%ずつ、2022 年度に 3%削減とする。

3. 産業廃棄物、一般廃棄物について 2019 年度の実績を基に目標値を算出する。
循環資源として処理できるものは 100% 処理を行う。
排出量の目標値は、2019 年度実績を基に、年 1%ずつ、2022 年度に 3%削減とする。

環境目標 (中期)	項目	単位	基準年 2019 年度	2020 年度目標	2021 年度目標	2022 年度目標
二酸化炭素量 (2022 年度に 3%削減)	二酸化炭素量	kg/CO2	110,764	109,648	108,541	107,435
	電力量 (二酸化炭素量)	kWh	158,001 (72,680kg/ CO_2)	156,420 (72,891kg/ CO_2) (基準年 99%)	154,840 (72,155kg/ CO_2) (基準年 98%)	153,260 (71,419kg/ CO_2) (基準年 97%)
	ガソリン使用量 (二酸化炭素量)	L	3,825 (8,874kg/ CO_2)	3,786 (8,783kg/ CO_2) (基準年 99%)	3,748 (8,695kg/ CO_2) (基準年 98%)	3,710 (8,607kg/ CO_2) (基準年 97%)
	軽油使用量 (二酸化炭素量)	L	10,953 (28,261kg/ CO_2)	10,843 (27,974kg/ CO_2) (基準年 99%)	10,733 (27,691kg/ CO_2) (基準年 98%)	10,624 (27,409kg/ CO_2) (基準年 97%)

※電力購入先：鈴与商事(株)　排出量係数：0.466kg-CO_2/kwh(2016 年度版)

環境目標 (中期)	項目	単位	基準年 2019 年度	2020 年度目標	2021 年度目標	2022 年度目標
水資源使用量 (2022 年度に 3%減)	上水道使用量	m^3	1,275	1,262 (基準年 99%)	1,249 (基準年 98%)	1,236 (基準年 97%)

環境目標 (中期)	項目	単位	基準年 2019 年度	2020 年度目標	2021 年度目標	2022 年度目標
紙類処理依頼 (2022 年度に 3%削減)	一般廃棄物 (紙類)	%	100% (48.62t)	100% (48.13t)	100% (47.64t)	100% (47.16t)
焼却処理依頼 (2022 年度に 1%減)	一般廃棄物 (焼却)	t	(48.62t に含む) 1.5t	(48.13t に含む) 1.48t (基準年 99%)	(47.64t に含む) 1.48t (基準年 99%)	(47.16t に含む) 1.48t (基準年 99%)
その他の処理依頼 (2022 年度に 1%削減)	産業廃棄物 (木くず)	%	100% (0.79t)	100% (0.78t)	100% (0.78t)	100% (0.78t)
	産業廃棄物 (プラスチック類)	%	100% (4.93t)	100% (4.88t)	100% (4.88t)	100% (4.88t)
目標設定無し	その他	t	―	―	―	―

5.環境経営計画と評価

活動計画と評価

環境計画項目			実施責任者	期間				評価	コメント	今後(次年度)の取組内容
				10~12月	1~3月	4月~6月	7月~9月			
二酸化炭素の削減	エコドライブ	A.不必要なアイドリングの禁止	天野、井鍋	→	→	→	→	○	各社員にエコドライブの意識は定着。 次年度以降もエコドライブを継続する。	継続する。
		B.業務上不要な荷物を降ろす	天野	→	→	→	→	○		
		C.急発進・急加速の禁止	天野、井鍋	→	→	→	→	○		
		D.効率的な配送ルートと配送のタイミングを常に検討する	天野	→	→	→	→	○		
		E.早めにシフトアップ	天野	→	→	→	→	○		
		F.給油時、タイヤの空気圧を確認する	天野、井鍋	→	→	→	→	○		
		G.燃費を毎月確認し現状を把握、改善につなげる	天野、井鍋	→	→	→	→	○		
	車他	A.自動車購入時は省エネ車採用	社長	→	→	→	→	○	営業の自動車は全てハイブリット車へ変更	変更の際はハイブリット車を採用する。
	空調等	A.社内のエアコン設定温度を冷房27℃、暖房20℃に設定	大河原	→	→	→	→	○	前年度同様、過度な空調を行わない様、各社員が適時空調の調整を行った。	継続する。
		B.クールビズ・ウォームビズの実施	井鍋	→	→	→	→	○		
		C.定期的にエアコンのフィルターを清掃する	天野	→	→	→	→	○		
		D.使用していない部屋の空調を止める	大河原	→	→	→	→	○		
		E.室外機の動作確認	井鍋	→	→	→	→	○		
		F.日射を遮るため、遮光対策の実施	井鍋	→	→	→	→	○		
	照明	A.消灯の徹底	井鍋	→	→	→	→	○	LED照明、新規設置無し。	新規設置の場合はLED照明を採用する。
		B.高効率照明の採用(LED照明等)	井鍋	現行の全ての照明をLED化完了。新しく照明設置をする場合はLED照明を採用する。				○		
	電気	A.未使用設備の電源を止める	天野	→	→	→	→	○	デマンドコントローラーにて監視を継続。	継続する。
		A.デマンドコントローラーの導入	井鍋	→	→	→	→	○		
水使用削減		A.水撒き、洗車時の節水(ストッパー取り付け)	天野	→	→	→	→	○	井戸水を利用し散水量を削減。	継続する。
		B.植栽への水撒きに井戸水を使用	天野	→	→	→	→	○		
廃棄物削減		A.封筒などの再利用	井鍋	→	→	→	→	○	再利用できる封筒は社内用として利用。	継続する。
リサイクル		A.古紙を分別、古紙収集会社へ処理を依頼しマテリアルリサイクルを行う	井鍋	→	→	→	→	○	再生可能資源は処理会社へ処理を依頼。 再利用できるものは再利用し、 排出量を出来る限り抑えた。	継続する。
		B.不要な木製パレットを廃棄物処理会社へ依頼しマテリアルリサイクルを行う	井鍋	→	→	→	→	○		
		C.不要なビニール類を廃棄物処理会社へ依頼しサーマルリサイクルを行う	井鍋	→	→	→	→	○		
教育訓練		A.環境経営システムの運用説明	井鍋	→	→	→	→	○	全社員で緊急事態の訓練済み。	継続する。
		B.緊急事態の想定訓練	山本	→	→	→	→	○		
備考		運用期間の評価期間は2021年10月~2022年9月末とする。							※評価の進捗欄は○△×で評価する。	

6.目標と実績の評価(2021 年 10 月～2022 年 9 月)

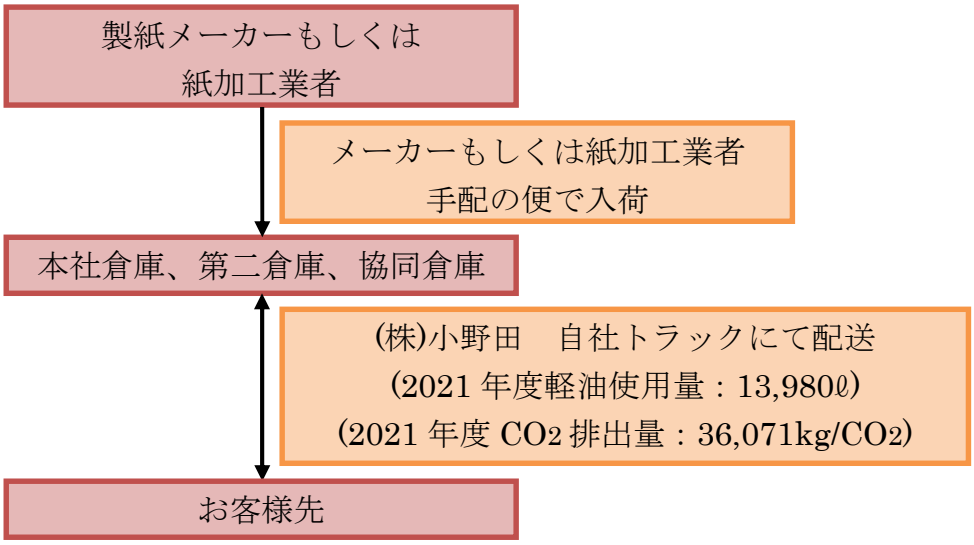
環境目標項目	項目	単位	基準年 2019 年度	2021 年度目標	2021 年度実績	評価
二酸化炭素量 (2022 年度に 3%減)	二酸化炭素量	kg/ C O2	110,764	108,541	108,159.49	△ (99%)
	電力量 (二酸化炭素量)	k W h	158,001 (72,680kg/ CO_2)	154,840 (72,155kg/ CO_2) (基準年 98%)	136,625 (63,667kg/ CO_2)	◎ (88%)
	ガソリン使用量 (二酸化炭素量)	L	3,825 (8,874kg/ CO_2)	3,748 (8,695kg/ CO_2) (基準年 98%)	3,629.91 (8,421kg/ CO_2)	△ (96%)
	軽油使用量 (二酸化炭素量)	L	10,953 (28,261kg/ CO_2)	10,733 (27,691kg/ CO_2) (基準年 98%)	13,980.95 (36,070kg/CO_2)	× (130%)
水資源使用量 (2022 年度に 3%減)	上水道使用量	m^3	1,275	1,249 (基準年 98%)	1,537	× (123%)

環境目標項目	項目	単位	基準年 2019 年度	2021 年度目標	2021 年度実績	評価
紙類処理依頼 (2022 年度に 3%削減)	一般廃棄物 (紙類)	t	100% (48.62t)	100% (47.64t)	100% (73.40t)	× (154%)
焼却処理依頼 (2022 年度に 1%減)	一般廃棄物 (焼却)	t	1.50t	1.48t (基準年 99%)	1.50	△ (101%)
その他の処理依頼 (2022 年度に 1%削減)	産業廃棄物 (木くず)	t	100% (0.79t)	100% (0.78t)	100% (3.08t)	× (394%)
	産業廃棄物 (プラスチック類)	t	100% (4.93t)	100% (4.88t)	100% (9.6t)	× (196%)
目標設定無し	その他	t	―	―	―	―
備考	評価基準　◎：基準年と本年度の実績を比較、90%以下 ○：基準年と本年度の実績を比較、95%以下 △：基準年と本年度の実績を比較、105%以上 ×：基準年と本年度の実績を比較、110%以上					

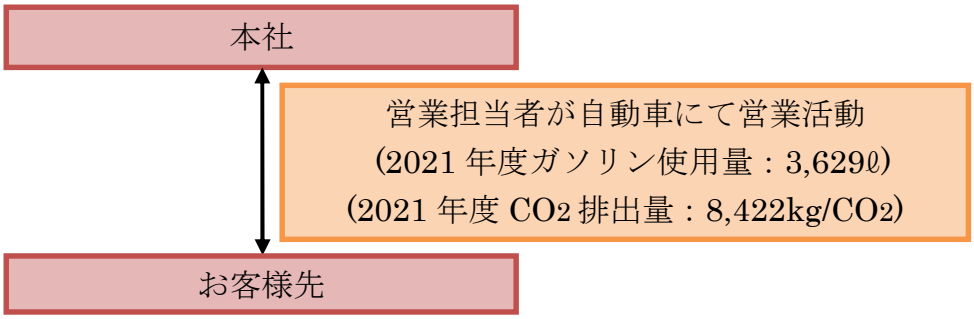
※電力購入先：鈴与商事(株)　排出量係数：0.466kg-CO_2/kwh(2016 年度版)

7.事業活動のフロー図(2021 年 10 月～2022 年 9 月)

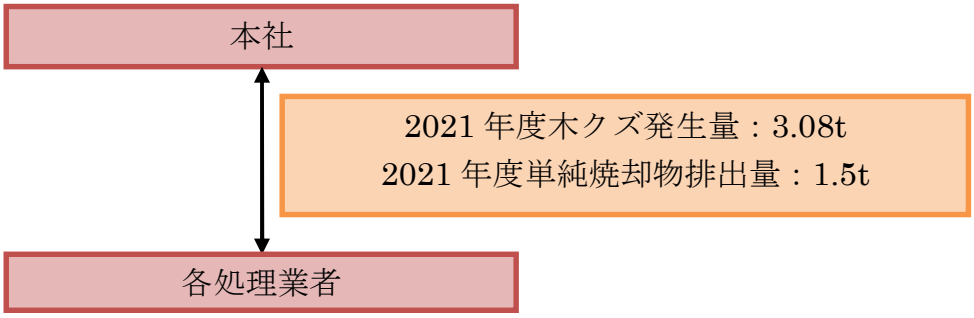
①製品もしくは紙加工品のフロー図



②営業活動のフロー図



③事業活動によって発生した循環資源、木クズ、単純焼却物のフロー図



8.環境関連法規制等への違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

評価日：2022 年 12 月 23 日　評価者：井鍋　祐太

法規制等の名称	条項	適用詳細	遵守確認
静岡市廃棄物の処理及び減量に関する条例	4 条	廃棄物の適正処理及び再利用による減量	適正処理済み。
静岡市産業廃棄物の適正な処理に関する条例	10 条	産業廃棄物の運搬、処分の実施の状況を実地確認する	実行済み
廃棄物処理法		産業廃棄物の適正処理(木パレット)自社運搬、 マニフェストの管理、交付状況の報告	適正処理済み。
資源有効利用促進法		古紙、損紙、断裁くずの再利用	適正処理済み。
家電リサイクル法	6 条	可能な限りの長期間使用（テレビ、冷蔵庫） 製品廃棄時、有料にて適切な引渡し	処分実績無し。
フロン排出抑制法	5 条	簡易点検(点検簿、機器廃棄から 3 年間保存)	実行済み。
自動車リサイクル法	8 条	使用済み自動車の業者への引渡し	処分実績無し。
パソコンリサイクル法		有料にて適切な引渡し	処分実績無し。
消防法		消防用設備の点検	6 か月に一度、 外部に委託し確認

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、環境法規制等の違反なし。

過去 3 年間にわたっても違反、訴訟、又、行政、関係機関からの指導なし。

9.全体の評価と見直し(2021 年 10 月～2022 年 9 月)

1.環境目標項目：二酸化炭素量(2022 年度に基準年から 3%削減)

二酸化炭素量…2021 年度目標 108,541kg-CO_2 に対し、実績 108,159kg-CO_2 で目標未達成。

① 電　力 ：本社にて包装事業(軽作業)を 2017 年 12 月から開始、第一倉庫にて包装事業(軽作業)を 2019 年 12 月から開始している。

軽作業の売上は昨年度と比べ約 25%増えているが、
作業方法を見直し、作業の効率化を進めた結果、電気使用量を抑えることができた。

②ガソリン：営業車は 4 台中 3 台がハイブリット車であり、各営業のエコドライブ活動によりガソリン使用量を抑えることが出来た。

③ 軽　油 ：包装事業(軽作業)に関連し、配送頻度の増加、長距離配送、新規配送先の増加により、走行距離が増えた。
結果、軽油使用量が増えた。

2.環境目標項目：水資源使用量(2022 年度に基準年から 3%削減)

上水道使用量…2021 年度目標 1,249 ㎥に対し、実績 1,537 ㎥で目標未達成。

①上水道　：構内清掃等の水の使用を増やした為、目標未達成。

3.環境目標項目：循環資源処理量(2022 年度に排出量を基準年から 3%削減)

① 紙　　類 ：包装事業(軽作業)を行う際に発生・廃棄する紙類(主に段ボール)が作業量に比例して増加。引取り業者に毎日、紙類の引取りを依頼している。

②木　ク　ズ：使用可能な木製パレットは極力再利用した。
パレット回収機構で回収可能な木製パレットは基本全量回収に回した。
しかし荷扱いの量が増え、パレット回収機構で回収できないパレットも増えた為、結果処理に回す量が増えた。

③プラスチック：包装事業(軽作業)を行う際に発生・廃棄するプラスチックが作業量に比例して増加。引取り業者に毎日、紙類の引取りを依頼している。

4.環境目標項目：単純焼却処理量(2022 年度に 3%減)

単純焼却量…2021 年度目標 1.48t に対し、実績 1.50t で目標未達成。

①単純焼却：特に木製パレットは極力再使用したが、包装事業で排出されるゴミが増え、結果焼却処分量が増えてしまった。

11.代表者による全体の評価と見直し・指示

作成　2023年1月13日

1・見直し関連情報		項　目	確認	:(必要に応じて評価・コメント記載)
	1	エコアクション21文書	☑	記録・文書として作成しました。
	2	環境経営目標及び目標達成状況	☑	二酸化炭素、電気、軽油、水資源、循環資源量、単純焼却量が目標未達
	3	環境経営計画及び取り組み実施状況	☑	継続して取り組みます。
	4	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	☑	記録に記載いたしました。
	5	外部コミュニケーション・対応記録	☑	特に問題ありませんでした。
	6	問題点の是正・予防措置の実施状況	☑	作業量に比例して電気、軽油の使用量が増加。増加に対して無駄が無いか、毎月担当者間で情報を共有する場を設け、問題点を確認・改善を行う。
	7	取引先、業界、関係行政機関、その他の外部動向	☑	継続して取り組みます
	8	その他(　　)	□	

2・代表者による全体評価・見直し指示

2021年度は昨年度以上に包装事業(軽作業)の作業量が増加。特に軽油について、配送量の増加等の結果、前年度の以上に使用量が増えてしまった。作業量は今後も増加が予測され、軽油使用量の増加は避けられないと考える。2023年2月に本社の屋上に太陽光発電設備を増設する。太陽光発電で得られる電気を使用する事で、購入電気を使用する事で発生する二酸化炭素の排出量を抑え、総量としての二酸化炭素排出量が減ることを期待している。

2023年1月13日

株式会社小野田

代表取締役社長　小野田　眞

	見直し項目	変更の必要性	「有」の場合の指示事項等
1	環境経営方針	有・(無)	
2	環境経営目標	有・(無)	
3	環境経営計画	(有)・無	未達成の目標については運用を行いながら問題点を改善してゆく。
4	環境に関する組織(実施体制含め)	有・(無)	
5	その他のシステム要素	有・(無)	
6	その他(外部への対応)	有・(無)	